

平成20年9月12日

各 位

会社名 株式会社 セキド
代表者名 代表取締役社長 関戸 正実
(コード番号 9878 東証第二部)
問合せ先 取締役執行役員総務部長 弓削 英昭
TEL. 042-643-6835

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成20年4月4日に公表した業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせします。

記

1. 平成21年2月期中間業績予想の修正 (平成20年2月21～平成20年8月20日)

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益	1株当たり 中間純利益
前回発表予想 (A)	11,300	64	46	27	1円90銭
今回修正予想 (B)	11,026	△129	△130	△147	△10円36銭
増減額 (B-A)	△274	△193	△176	△174	—————
増減率 (%)	△2.4	—————	—————	—————	—————
(ご参考) 前期実績 (平成20年2月期中間期)	12,101	113	90	112	7円91銭

(金額の単位：百万円)

2. 平成21年2月期通期業績予想の修正 (平成20年2月21～平成21年2月20日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	24,000	230	200	160	11円28銭
今回修正予想 (B)	23,300	55	45	10	0円71銭
増減額 (B-A)	△700	△175	△155	△150	—————
増減率 (%)	△2.9	△76.1	△77.5	△93.8	—————
(ご参考) 前期実績 (平成20年2月期)	24,918	313	271	203	14円33銭

(金額の単位：百万円)

3. 修正の理由

当中間会計期間におけるわが国の経済は、景気の後退局面に入り、個人所得の伸び悩み中、資源高騰などによる物価上昇が顕著となり、個人消費への影響が懸念される状況にありました。

このような状況のもと、当社は、前事業年度のリストラの終了を受け、既存店舗の営業力強化に取り組んでまいりました。売上高については、家電事業においては、前事業年度の1店舗閉鎖と個人消費の落ち込みの影響はありましたが、天候にも恵まれ季節商品の販売が好調に推移したほか、オール電化関連商品も順調に販売でき、若干、計画は下回ったものの、既存店前年比では業界の平均を上回るペースで推移いたしました。ファッション事業においても、前事業年度の2店舗閉鎖に加え、ファッション業界全体が心理不況の影

響を受ける中、販促の強化により、前年、やや動きの鈍かったスーパーブランドの高価格商品の販売強化を図るとともに、引続き中価格帯の高付加価値商品への取組みを推し進め、売上高の確保に努め、既存店前年比96.7%と善戦いたしました。なお、新規出店に関しましては、家電事業の店舗を中心に検討しておりますが、引続き、市場環境の状況も勘案し慎重に検討してまいります。

これらの結果、売上高は、若干、計画を下回りましたが、販促強化により新規顧客の獲得ができたことなど、下半期に向け、明るい材料も見えてきております。一方、利益面におきましては、厳しい消費環境の中、売上総利益率が前年対比で0.2ポイント低下したこと、販促強化などによる販管費比率の上昇により、営業利益、経常利益、中間純利益とも前回予想を下回る見込みであります。

なお、通期業績予想につきましては、上半期の状況を踏まえ、高付加価値商品の販売強化による売上総利益率の向上と販促費の効率的な投下などによる販売管理費の削減を推し進め、通期業績黒字を確保してまいります。

※本資料の業績予想は、発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成しております。実際の業績は、今後様々な要因によって本資料の予想数値と異なる可能性があります。

以 上